

令和元年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

平成30年度決算補充説明資料

	頁
1 平成30年度 病院事業決算の概況	
(1) 収益的収支	
① 病院事業庁全体の収益的収支	1
② こころの医療センターの収益的収支	2
③ 一志病院の収益的収支	3
④ 志摩病院の収益的収支	4
⑤ 病院別の収益的収支	6
⑥ 患者数の状況	7
(2) 資本的収支	8
(3) 一般会計繰入金	9
(4) 貸借対照表	10
【報告】	
私債権の放棄について	12
【参考】	
債権処理計画（平成30年度実績・令和元年度目標）について	13

令和元年10月3日
病 院 事 業 庁

1 平成30年度 病院事業決算の概況

(1) 収益的収支

① 病院事業庁全体の収益的収支

平成30年度は、こころの医療センターにおいては、県内の精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を行うとともに、経営の健全化に取り組んできました。また、志摩病院においては、指定管理者である公益社団法人地域医療振興協会により、診療機能の段階的な回復・充実を図りながら、志摩地域の中核病院としての取組を進めました。

平成30年度の病院事業の決算は、「ア 経常収益」については、一般会計繰入金や指定管理者負担金の減少などにより、前年度比97.8%の52億1,869万8,993円となりました。

「イ 経常費用」については、給与費の増加や経費の減少などにより、前年度比99.8%の52億9,403万2,618円となりました。

これらの結果、経常損益は、7,533万3,625円の赤字となりました。

【表1】病院事業庁の決算状況（収益的収支）

（単位：円、％）

	平成29年度決算	平成30年度決算	増減(H30-H29)	前年度比
①病院事業収益 A+B+C	5,336,525,962	5,218,698,993	△117,826,969	97.8
医業収益 A	2,765,971,910	2,796,754,084	30,782,174	101.1
入院収益	2,111,428,188	2,146,439,773	35,011,585	101.7
外来収益	501,973,372	494,307,712	△7,665,660	98.5
その他医業収益	152,570,350	156,006,599	3,436,249	102.3
医業外収益 B	2,570,554,052	2,421,944,909	△148,609,143	94.2
うち長期前受金戻入	231,741,415	233,803,848	2,062,433	100.9
うち繰入金	2,067,096,000	1,997,649,000	△69,447,000	96.6
うちその他医業外収益	267,545,763	186,392,363	△81,153,400	69.7
ア 経常収益 A+B	5,336,525,962	5,218,698,993	△117,826,969	97.8
特別利益 C	0	0	0	-
②病院事業費用 D+E+F	5,306,407,438	5,294,032,618	△12,374,820	99.8
医業費用 D	5,058,106,411	5,067,980,892	9,874,481	100.2
うち給与費	2,797,765,996	2,896,888,346	99,122,350	103.5
うち材料費	258,466,722	259,336,160	869,438	100.3
うち経費	1,434,450,575	1,338,140,841	△96,309,734	93.3
うち減価償却費	548,126,550	545,219,966	△2,906,584	99.5
うち資産減耗費	8,261,197	17,409,453	9,148,256	210.7
医業外費用 E	248,301,027	226,051,726	△22,249,301	91.0
イ 経常費用 D+E	5,306,407,438	5,294,032,618	△12,374,820	99.8
特別損失 F	0	0	0	-
経常損益 アーイ	30,118,524	△75,333,625	△105,452,149	-
純損益 ①-②	30,118,524	△75,333,625	△105,452,149	-

【参考】累積欠損金の推移

（単位：円）

	平成29年度決算	平成30年度決算
累積欠損金	△9,165,987,297	△9,241,320,922

② こころの医療センターの収益的収支

こころの医療センターの決算は、「ア 経常収益」については、外来患者数の減により外来収益が減少したものの、入院患者数の増により入院収益が増加したことなどから、前年度比100.4%の31億6,011万5,342円となりました。

「イ 経常費用」については、退職給付金の増により給与費が増加したことなどにより、前年度比101.0%の32億5,425万2,469円となりました。

これらの結果、経常損益は、9,413万7,127円の赤字となりました。

【表2】こころの医療センターの決算状況（収益的収支）

（単位：円、%）

	平成29年度決算	平成30年度決算	増減(H30-H29)	前年度比
①病院事業収益 A+B+C	3,148,790,284	3,160,115,342	11,325,058	100.4
医業収益 A	2,101,767,012	2,107,473,823	5,706,811	100.3
入院収益	1,732,982,076	1,746,285,711	13,303,635	100.8
外来収益	344,513,099	334,153,541	△10,359,558	97.0
その他医業収益	24,271,837	27,034,571	2,762,734	111.4
医業外収益 B	1,047,023,272	1,052,641,519	5,618,247	100.5
うち長期前受金戻入	88,190,886	89,608,349	1,417,463	101.6
うち繰入金	936,081,000	940,462,000	4,381,000	100.5
ア 経常収益 A+B	3,148,790,284	3,160,115,342	11,325,058	100.4
特別利益 C	0	0	0	-
②病院事業費用 D+E+F	3,223,348,315	3,254,252,469	30,904,154	101.0
医業費用 D	3,074,593,146	3,121,573,970	46,980,824	101.5
うち給与費	2,153,623,913	2,204,070,330	50,446,417	102.3
うち材料費	198,090,618	194,105,520	△3,985,098	98.0
うち経費	536,897,462	531,436,982	△5,460,480	99.0
うち減価償却費	176,817,215	174,285,972	△2,531,243	98.6
うち資産減耗費	1,164,912	8,917,521	7,752,609	765.5
医業外費用 E	148,755,169	132,678,499	△16,076,670	89.2
イ 経常費用 D+E	3,223,348,315	3,254,252,469	30,904,154	101.0
特別損失 F	0	0	0	-
経常損益 アーイ	△74,558,031	△94,137,127	△19,579,096	-
純損益 ①-②	△74,558,031	△94,137,127	△19,579,096	-

③ 一志病院の収益的収支

一志病院の決算は、「ア 経常収益」については、患者数及び診療単価の増により入院収益及び外来収益が増加したことなどから、前年度比101.6%の10億1,934万4,804円となりました。

「イ 経常費用」については、給与費が増加したことなどにより、前年度比102.7%の9億3,661万5,280円となりました。

これらの結果、経常損益は、8,272万9,524円の黒字となりました。

【表3】一志病院の決算状況（収益的収支）

（単位：円、%）

	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	増減 (H30-H29)	前年度比
①病院事業収益 A+B+C	1,003,419,033	1,019,344,804	15,925,771	101.6
医業収益 A	649,443,964	676,069,128	26,625,164	104.1
入院収益	378,446,112	400,154,062	21,707,950	105.7
外来収益	157,460,273	160,154,171	2,693,898	101.7
その他医業収益	113,537,579	115,760,895	2,223,316	102.0
医業外収益 B	353,975,069	343,275,676	△10,699,393	97.0
うち長期前受金戻入	13,586,738	15,106,027	1,519,289	111.2
うち繰入金	338,350,000	326,621,000	△11,729,000	96.5
ア 経常収益 A+B	1,003,419,033	1,019,344,804	15,925,771	101.6
特別利益 C	0	0	0	-
②病院事業費用 D+E+F	912,074,065	936,615,280	24,541,215	102.7
医業費用 D	891,313,421	915,892,241	24,578,820	102.8
うち給与費	551,281,966	593,523,854	42,241,888	107.7
うち材料費	60,376,104	65,230,640	4,854,536	108.0
うち経費	215,024,370	189,743,832	△25,280,538	88.2
うち減価償却費	60,703,327	62,838,536	2,135,209	103.5
うち資産減耗費	1,772,168	2,906,334	1,134,166	164.0
医業外費用 E	20,760,644	20,723,039	△37,605	99.8
イ 経常費用 D+E	912,074,065	936,615,280	24,541,215	102.7
特別損失 F	0	0	0	-
経常損益 アーイ	91,344,968	82,729,524	△8,615,444	-
純損益 ①-②	91,344,968	82,729,524	△8,615,444	-

④ 志摩病院の収益的収支

志摩病院については、指定管理者制度を導入しているため、病院事業会計における志摩病院の決算においては、収益面では入院及び外来収益などは含んでおらず、主に指定管理者への交付金等の財源となる一般会計からの繰入金等を計上しています。また、費用面では病院の直接的な運営経費である給与費や材料費などは含んでおらず、指定管理者への交付金や病院の施設・設備、医療機器等にかかる減価償却費等を計上しています。

「ア 経常収益」については、企業債償還金の減に伴う指定管理者負担金の減少等により、前年度比86.3%の9億3,360万3,457円となりました。

「イ 経常費用」については、指定管理者に交付する経営基盤強化交付金が減少したことなどから、前年度比93.4%の9億9,752万9,479円となりました。

これらの結果、県の会計における志摩病院の経常損益は、6,392万6,022円の赤字となりました。

【表4】志摩病院（県会計）の決算状況（収益的収支）

（単位：円、%）

	平成29年度決算	平成30年度決算	増減(H30-H29)	前年度比
①病院事業収益 A+B+C	1,081,823,240	933,603,457	△148,219,783	86.3
医業収益 A	14,760,934	13,211,133	△1,549,801	89.5
その他医業収益	14,760,934	13,211,133	△1,549,801	89.5
医業外収益 B	1,067,062,306	920,392,324	△146,669,982	86.3
うち長期前受金戻入	129,294,461	128,420,142	△874,319	99.3
うち繰入金	690,989,000	625,840,000	△65,149,000	90.6
うちその他医業外収益	244,768,845	163,973,182	△80,795,663	67.0
ア 経常収益 A+B	1,081,823,240	933,603,457	△148,219,783	86.3
特別利益 C	0	0	0	-
②病院事業費用 D+E+F	1,068,491,653	997,529,479	△70,962,174	93.4
医業費用 D	991,836,450	925,459,853	△66,376,597	93.3
うち経費	677,572,964	613,247,658	△64,325,306	90.5
うち減価償却費	308,961,989	306,626,597	△2,335,392	99.2
うち資産減耗費	5,301,497	5,585,598	284,101	105.4
医業外費用 E	76,655,203	72,069,626	△4,585,577	94.0
イ 経常費用 D+E	1,068,491,653	997,529,479	△70,962,174	93.4
特別損失 F	0	0	0	-
経常損益 アーイ	13,331,587	△63,926,022	△77,257,609	-
純損益 ①-②	13,331,587	△63,926,022	△77,257,609	-

なお、志摩病院の運営に伴う事業収益や事業費用などを計上している「指定管理者の志摩病院会計の決算」は、下表のとおりです。

収入については入院患者数の減などにより、また、支出については設備関係費の減などにより、それぞれ減少しました。

これらの結果、経常収支は約1億5,600万円の赤字となりました。

【参考】指定管理者の志摩病院会計の決算

(単位：百万円、%)

		平成29年度 決算	平成30年度 決算	増減 (H30-H29)	前年度比
収 入	事業収益	3,476	3,322	△154	95.6
	医業収益	3,399	3,242	△157	95.4
	うち入院収益	2,504	2,338	△166	93.4
	うち外来収益	895	904	9	101.0
	医業外収益	76	80	4	105.3
	事業外収益	571	577	6	101.1
①経常収入計		4,047	3,899	△148	96.3
支 出	事業費用	4,112	4,050	△62	98.5
	うち給与費	2,232	2,238	6	100.3
	うち設備関係費	423	345	△78	81.6
	事業外費用	5	6	1	120.0
②経常支出計		4,117	4,056	△61	98.5
経常収支 ①-②		△69	△156	△87	-

※百万円未満四捨五入のため、合計や差引が合わない場合があります。

⑤ 病院別の収益的収支

平成30年度の収益的収支を病院別にまとめると下表のとおりです。

【表5】病院別 収益的収支

(単位：百万円)

	こころの医療 センター	一志病院	志摩病院	県立病院課	合計
① 病院事業収益 A+B+C	3,160	1,019	934	106	5,219
医業収益 A	2,107	676	13	-	2,797
入院収益	1,746	400	-	-	2,146
外来収益	334	160	-	-	494
その他医業収益	27	116	13	-	156
医業外収益 B	1,053	343	920	106	2,422
うち長期前受金戻入	90	15	128	1	234
うち繰入金	940	327	626	105	1,998
うちその他医業外収益	21	2	164	0	186
ア 経常収益 A+B	3,160	1,019	934	106	5,219
特別利益 C	-	-	-	-	-
② 病院事業費用 D+E+F	3,254	937	998	106	5,294
医業費用 D	3,122	916	925	105	5,068
うち給与費	2,204	594	-	99	2,897
うち材料費	194	65	-	-	259
うち経費	531	190	613	4	1,338
うち減価償却費	174	63	307	1	545
うち資産減耗費	9	3	6	-	17
医業外費用 E	133	21	72	1	226
イ 経常費用 D+E	3,254	937	998	106	5,294
特別損失 F	-	-	-	-	-
経常損益 アーイ	△94	83	△64	-	△75
純損益 ①-②	△94	83	△64	-	△75

*百万円未満四捨五入のため、合計や差引が合わない場合があります。

⑥ 患者数の状況

患者数については、入院患者数が延べ187,016人(1日平均512.4人)、外来患者数が延べ149,912人(1日平均614.4人)で、前年度と比較して、入院患者数は7,908人、外来患者数は4,730人の減少となりました。

【表6】延べ患者数

(単位:人)

	入院患者数				外来患者数			
	H29	H30	増減 (H30-H29)	前年度比 (H30/H29)	H29	H30	増減 (H30-H29)	前年度比 (H30/H29)
こころの医療センター	99,207	100,216	1,009	101.0%	56,827	53,971	△2,856	95.0%
一志病院	14,444	14,353	△91	99.4%	19,308	19,364	56	100.3%
志摩病院	81,273	72,447	△8,826	89.1%	78,507	76,577	△1,930	97.5%
合計	194,924	187,016	△7,908	95.9%	154,642	149,912	△4,730	96.9%

【表7】1日平均患者数

(単位:人/日)

	入院患者数				外来患者数			
	H29	H30	増減 (H30-H29)	前年度比 (H30/H29)	H29	H30	増減 (H30-H29)	前年度比 (H30/H29)
こころの医療センター	271.8	274.6	2.8	101.0%	232.9	221.2	△11.7	95.0%
一志病院	39.6	39.3	△0.2	99.4%	79.1	79.4	0.2	100.3%
志摩病院	222.7	198.5	△24.2	89.1%	321.8	313.8	△7.9	97.5%
合計	534.0	512.4	△21.7	95.9%	633.8	614.4	△19.4	96.6%

*四捨五入のため、合計や差引が合わない場合があります。

(2) 資本的収支

「① 資本的収入」については、企業債及び県費負担金等で、14億8,877万3,000円となりました。

「② 資本的支出」については、病院の施設・設備の改修や資産購入、企業債の償還等のため、18億7,185万9,009円を支出しました。そのうち建設改良費は5億3,302万2,910円で、主な内容は、こころの医療センターにおける吸収式冷温水発生機ほか改修工事、一志病院における空調設備及び防火ダンパー改修工事、志摩病院における蒸気配管改修工事等です。

なお、収入と支出との差額3億8,308万6,009円については、内部留保資金を充当しました。

【表8】資本的収入及び支出

(単位：円、%)

	平成29年度決算	平成30年度決算	増減(H30-H29)	前年度比
①資本的収入	1,449,810,000	1,488,773,000	38,963,000	102.7
企業債	408,800,000	514,500,000	105,700,000	125.9
県費負担金	441,010,000	371,873,000	△69,137,000	84.3
固定資産売却代金	0	2,400,000	2,400,000	皆増
短期貸付金返還金	600,000,000	600,000,000	0	-
②資本的支出	1,903,284,982	1,871,859,009	△31,425,973	98.3
建設改良費	424,680,314	533,022,910	108,342,596	125.5
企業債償還金	787,404,668	648,236,099	△139,168,569	82.3
長期借入金償還金	90,000,000	90,000,000	0	-
長期貸付金	1,200,000	600,000	△600,000	50.0
短期貸付金	600,000,000	600,000,000	0	-
資本的収支 ①-②	△453,474,982	△383,086,009	70,388,973	-

【表9】病院別 資本的収支

(単位：百万円)

	こころの医療センター	一志病院	志摩病院	県立病院課	合計
①資本的収入	429	108	945	7	1,489
企業債	208	95	208	4	515
県費負担金	221	13	137	1	372
固定資産売却代金	-	-	-	2	2
短期貸付金返還金	-	-	600	-	600
②資本的支出	565	128	1,082	96	1,872
建設改良費	223	96	210	4	533
企業債償還金	342	32	273	2	648
長期借入金償還金	-	-	-	90	90
長期貸付金	-	-	-	1	1
短期貸付金	-	-	600	-	600
資本的収支 ①-②	△137	△20	△137	△89	△383

*百万円未満四捨五入のため、合計や差引が合わない場合があります。

(3) 一般会計繰入金

救急医療の確保に要する経費や保健衛生行政事務に要する経費など、経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費等については、国の示す基準を踏まえた本県の積算基準に基づき、一般会計からの繰入金を受けています。

平成30年度の繰入金は、約23億7,000万円であり、平成29年度の繰入金約25億800万円と比較して、企業債の償還金や指定管理者への交付金が減少したことなどに伴い、約1億3,800万円の減少となっています。

【表10】一般会計繰入金の内訳

(単位:百万円)

繰入項目	こころの医療センター	一志病院	志摩病院	県立病院課	合計
項目1 人材育成に要する経費	64	19	-	-	83
項目2 救急医療の確保に要する経費	95	34	-	-	128
項目3 保健衛生行政事務に要する経費	13	10	600	77	701
災害拠点病院に要する経費	5	-	-	-	5
院内保育所運営に要する経費	6	-	-	-	6
認知症疾患医療センター運営に要する経費	2	-	-	-	2
医療行政に要する経費	-	10	600	77	687
項目4 経営基盤強化対策に要する経費	42	249	-	5	296
不採算地区に立地することにより要する経費	-	239	-	-	239
医師及び看護師等の研究研修に要する経費	2	1	-	0	3
共済組合追加費用の負担に要する経費	41	10	-	4	55
項目5 特殊医療に要する経費	113	-	-	-	113
アルコール医療に要する経費	55	-	-	-	55
認知症医療に要する経費	39	-	-	-	39
精神科早期介入に要する経費	19	-	-	-	19
項目6 建設改良に要する経費(企業債利息支払)	38	0	26	0	65
項目7 精神病院運営割高経費	518	-	-	-	518
項目8 公的基礎年金拠出金に要する経費	57	14	-	6	77
項目9 児童手当に要する経費	-	-	-	17	17
収益的収入 計	940	327	626	105	1,998
項目10 建設改良に要する経費	221	13	137	1	372
建設改良費	-	-	0	-	0
企業債償還金	221	13	136	1	372
資本的収入 計	221	13	137	1	372
合 計	1,162	340	762	106	2,370

平成29年度一般会計繰入額	1,149	351	906	103	2,508
---------------	-------	-----	-----	-----	-------

*百万円未満四捨五入のため、合計や差引が合わない場合があります。

(4) 貸借対照表

平成31年3月末時点において、「① 資産」については、減価償却等による固定資産の減や現金預金等流動資産の減により、2億5,402万57円減の99億8,989万8,859円、「② 負債」については、企業債の償還等により、1億7,868万6,432円減の175億4,825万6,031円、「③ 資本」については、純損失の計上による剰余金の減により、7,533万3,625円減の△75億5,835万7,172円となりました。

【表11】 貸借対照表

(単位：円)

	平成29年度末	平成30年度末	増減(H30-H29)
①資産	10,243,918,916	9,989,898,859	△254,020,057
固定資産 A	8,793,601,528	8,727,005,599	△66,595,929
有形固定資産	8,531,017,883	8,462,258,833	△68,759,050
無形固定資産	2,334,393	2,317,894	△16,499
投資その他の資産	260,249,252	262,428,872	2,179,620
流動資産 B	1,450,317,388	1,262,893,260	△187,424,128
うち現金預金	923,724,093	784,033,327	△139,690,766
うち未収金	506,671,654	468,124,360	△38,547,294
資産合計 A+B	10,243,918,916	9,989,898,859	△254,020,057
②負債	17,726,942,463	17,548,256,031	△178,686,432
固定負債 C	13,430,538,332	13,213,841,399	△216,696,933
企業債	6,638,696,239	6,466,658,819	△172,037,420
他会計借入金	5,510,592,278	5,420,592,278	△90,000,000
引当金	1,281,249,815	1,326,590,302	45,340,487
流動負債 D	1,290,549,284	1,190,490,633	△100,058,651
うち企業債	648,236,099	686,537,420	38,301,321
うち引当金	165,506,000	173,571,000	8,065,000
うち未払金	467,156,942	320,474,831	△146,682,111
繰延収益 E	3,005,854,847	3,143,923,999	138,069,152
長期前受金	5,523,925,970	5,895,798,970	371,873,000
長期前受金収益化累計額	△2,518,071,123	△2,751,874,971	△233,803,848
③資本	△7,483,023,547	△7,558,357,172	△75,333,625
資本金 F	311,409,778	311,409,778	0
剰余金 G	△7,794,433,325	△7,869,766,950	△75,333,625
資本剰余金	1,371,553,972	1,371,553,972	0
欠損金	△9,165,987,297	△9,241,320,922	△75,333,625
負債・資本合計 C+D+E+F+G	10,243,918,916	9,989,898,859	△254,020,057

【参考】収益的収支の予算対比（税込）

（単位：百万円）

	予算額		決算額 (イ)	増減 (イ)-(ア)
	(ア)	(イ)		
①病院事業収益 A+B+C	5,239	5,230	5,230	△9
医業収益 A	2,815	2,807	2,807	△8
入院収益	2,157	2,146	2,146	△10
外来収益	494	494	494	0
その他医業収益	164	166	166	2
医業外収益 B	2,424	2,423	2,423	△1
うち長期前受金戻入	236	234	234	△2
うち繰入金	1,998	1,998	1,998	-
うちその他医業外収益	187	188	188	1
特別利益 C	-	-	-	-
②病院事業費用 D+E+F	5,337	5,303	5,303	△34
医業費用 D	5,168	5,136	5,136	△32
うち給与費	2,907	2,900	2,900	△8
うち材料費	273	271	271	△2
うち経費	1,409	1,391	1,391	△19
うち減価償却費	547	545	545	△2
うち資産減耗費	18	17	17	0
医業外費用 E	169	167	167	△2
特別損失 F	-	-	-	-
経常損益 (A+B) - (D+E)	△98	△73	△73	25
純損益 ①-②	△98	△73	△73	25

*百万円未満四捨五入のため、合計や差引が合わない場合があります。

【参考】資本的収支の予算対比（税込）

（単位：百万円）

	予算額		決算額 (ウ)	増減 (ウ)-{(ア)+(イ)}
	当年度予算額 (ア)	前年度繰越額 (イ)		
① 資本的収入	1,487	8	1,489	△7
うち企業債	513	8	515	△7
うち県費負担金	372	-	372	-
② 資本的支出	1,871	8	1,872	△7
うち建設改良費	532	8	533	△7
うち企業債償還金	648	-	648	0
資本的収支 ①-②	△383	0	△383	0

*百万円未満四捨五入のため、合計や差引が合わない場合があります。

【報告】

私債権の放棄について

三重県債権の管理及び私債権の徴収に関する条例第14条第2項の規定に基づき、平成30年度末までに消滅時効の期間が経過し、債務者が時効の援用をしていない債権のうち、3件、64万7,120円の債権を放棄しました。

このうち、債務者が生活保護を受給していることから、強制執行によって債務者の生活を著しく窮迫させるおそれがあると認められるものが2件、51万4,250円、債務者の所在及び差し押さえることができる財産が共に不明であると認められるものが1件、13万2,870円です。

放棄の事由等

私債権の種類	放棄の事由	件数	私債権の額
県立病院使用料等	条例第14条第2項第2号 (強制執行によって債務者の生活を著しく窮迫させるおそれがある)	2件	514,250円
県立病院使用料等	条例第14条第2項第3号 (債務者の所在及び差し押さえることができる財産が共に不明である)	1件	132,870円

《参考：三重県債権の管理及び私債権の徴収に関する条例（抜粋）》

（私債権の放棄）

第十四条 （第1項 略）

2 知事等は、私債権のうち消滅時効の期間が経過したもの（債務者が援用をしていないものに限る。）について、次の各号のいずれかに掲げる事由があると認められるときは、当該私債権及びこれに係る損害賠償金等を放棄することができる。

- 一 債務者に差し押さえることができる財産がないとき。
- 二 強制執行をすることによって債務者の生活を著しく窮迫させるおそれがあるとき。
- 三 債務者の所在及び差し押さえることができる財産が共に不明であるとき。

【参考】

債権処理計画（平成30年度実績・令和元年度目標）について （病院事業関係分）

	頁
・平成30年度 債権処理計画（実績・総括票）・・・・・・・・・・・・・・・・	14
・平成30年度 債権処理計画（実績・個票）・・・・・・・・・・・・・・・・	15
・令和元年度 債権処理計画（目標・総括票）・・・・・・・・・・・・・・・・	17
・令和元年度 債権処理計画（目標・個票）・・・・・・・・・・・・・・・・	18

様式(実績2)

平成30年度 債権処理計画(実績・総括票)

1 部局長等名	病院事業庁長
2 取りまとめ担当課名	県立病院課

滞納債権の現状

3 平成30年度実績

債権の性格	種別	A 平成29年度 実績	B 当初 (平成29年度末)	C 平成30年度 目 標 (30年度発生分を除く。)			D 実績(平成30年度末) (30年度発生分を除く。)				E 30年度発生分期 末残高	F 平成30年度末 B-D+E	主な債権	
		処理額	未済額	処理額	回収率・整理率		処理額	回収率・整理率		目標達成率	金額	金額		
		処理件数	未済件数	処理件数	全体比 C/B(%)	前年比 C/A(%)	処理件数	全体比 D/B(%)	前年比 D/A(%)	D/C(%)	件数	件数		
3-1 強制徴収 公債権	回収対象	0円 0件		0円 0件	回収率		0円 0件	回収率						
	整理対象	0円 0件		0円 0件	整理率		0円 0件	整理率						
	計	0円 0件	0円 0件	0円 0件	処理率		0円 0件	処理率				0円 0件	0円 0件	
3-2 非強制徴収 公債権	回収対象	0円 0件		0円 0件	回収率		0円 0件	回収率						
	整理対象	0円 0件		0円 0件	整理率		0円 0件	整理率						
	計	0円 0件	0円 0件	0円 0件	処理率		0円 0件	処理率				0円 0件	0円 0件	
3-3 私債権	回収対象	7,707,749円 63件		5,828,399円 26件	回収率	75.6	9,391,858円 67件	回収率	121.8	161.1				
	整理対象	1,501,866円 11件		1,409,420円 7件	整理率	93.8	2,335,482円 10件	整理率	155.5	165.7				
	計	9,209,615円 74件	76,171,593円 501件	7,237,819円 33件	処理率	9.5	11,727,340円 77件	処理率	15.4	127.3	162.0	3,771,325円 33件	68,215,578円 457件	
						6.6	44.6		15.4	104.1	233.3			
合計	回収対象	7,707,749円 63件		5,828,399円 26件	回収率	75.6	9,391,858円 67件	回収率	121.8	161.1				
	整理対象	1,501,866円 11件		1,409,420円 7件	整理率	93.8	2,335,482円 10件	整理率	155.5	165.7				
	計	9,209,615円 74件	76,171,593円 501件	7,237,819円 33件	処理率	9.5	11,727,340円 77件	処理率	15.4	127.3	162.0	3,771,325円 33件	68,215,578円 457件	
						6.6	44.6		15.4	104.1	233.3			

様式(実績1)

平成30年度 債権処理計画(実績・個票)

1 債権名	県立病院使用料等
2 債権の性格	私債権
3 債権の概要	県立病院で診療、処置等を受けた者が納付しなければならない使用料等(三重県病院事業条例)
4 滞納となった要因等	患者の生活困窮
5 部局長等名	病院事業庁長
6 所管課等名	県立病院課

7 取組方針	回収対象債権について、積極的に納付の督促等を実施する。
8 取組成果	債務者に対して、書面、電話、面談等により督促等を行い早期の納付を促すとともに、弁護士への回収業務委託を実施しました。 そうした結果、平成30年度中において939万2千円の債権を回収することができました。

滞納債権の現状

9 平成30年度実績

債権の性格	種別	A 平成29年度実績	B 当初(平成29年度末)	C 平成30年度目標(30年度発生分を除く。)			D 実績(平成30年度末)(30年度発生分を除く。)					E 30年度発生分期末残高	F 平成30年度末B-D+E	
		処理額	未済額	処理額	回収率・整理率		処理額	回収率・整理率		目標達成率	金額	金額		
		処理件数	未済件数	処理件数	全体比C/B(%)	前年比C/A(%)	処理件数	全体比D/B(%)	前年比D/A(%)	D/C(%)	件数	件数		
私債権	回収対象	7,707,749 円		5,828,399 円	回収率	75.6	9,391,858 円	回収率	121.8	161.1				
		63 件		26 件	回収率	41.3	67 件	回収率	106.3	257.7				
	整理対象	1,501,866 円		1,409,420 円	整理率	93.8	2,335,482 円	整理率	155.5	165.7				
		11 件		7 件	整理率	63.6	10 件	整理率	90.9	142.9				
	計	9,209,615 円	76,171,593 円	7,237,819 円	処理率	9.5	78.6	11,727,340 円	処理率	15.4	127.3	162.0	3,771,325 円	68,215,578 円
		74 件	501 件	33 件	処理率	6.6	44.6	77 件	処理率	15.4	104.1	233.3	33 件	457 件

様式(目標2)

令和元年度 債権処理計画(目標・総括票)

1 部局長等名	病院事業庁長
2 取りまとめ担当課名	県立病院課

滞納債権の現状

3 令和元年度目標

債権の性格	種別	A 平成30年度末		B 令和元年度目標 (令和元年度発生分を除く。)			C 令和元年度当初に存在する債権にかかる平成30年度処理額 (平成30年度発生分を除く。)		主な債権	
		未済額		処理額		回収率・整理率		処理額		
		未済件数		処理件数		全体比 B/A(%)	前年比 B/C(%)	処理件数		
3-1 強制徴収 公債権	回収			0 円	回収率			0 円	県立病院使用料等	
				0 件	回収率			0 件		
	整理			0 円	整理率			0 円		
				0 件	整理率			0 件		
計	0 円		0 円	処理率			0 円			
	0 件		0 件	処理率			0 件			
3-2 非強制徴収 公債権	回収			0 円	回収率			0 円		
				0 件	回収率			0 件		
	整理			0 円	整理率			0 円		
				0 件	整理率			0 件		
計	0 円		0 円	処理率			0 円			
	0 件		0 件	処理率			0 件			
3-3 私債権	回収			5,155,521 円	回収率	7.6	54.9	9,391,858 円		
				25 件	回収率		37.3	67 件		
	整理			2,336,849 円	整理率		100.1	2,335,482 円		
				15 件	整理率		150.0	10 件		
計	68,215,578 円		7,492,370 円	処理率	11.0	63.9	11,727,340 円			
	457 件		40 件	処理率	8.8	51.9	77 件			
合計	回収			5,155,521 円	回収率		54.9	9,391,858 円		
				25 件	回収率		37.3	67 件		
	整理			2,336,849 円	整理率		100.1	2,335,482 円		
				15 件	整理率		150.0	10 件		
計	68,215,578 円		7,492,370 円	処理率	11.0	63.9	11,727,340 円			
	457 件		40 件	処理率	8.8	51.9	77 件			

※ 前年度に完済した債権は、現年度の債権処理計画(目標)を作成しないことから、C欄に含まれません。
完済した債権を含む前年度の債権処理実績は、別冊「債権処理計画(実績)」でまとめています。

令和元年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

提出資料

	頁
1 病院事業庁長及び各病院長のマネジメントシート	
・病院事業庁長マネジメントシート（平成30年度・令和元年度）	2
・こころの医療センター院長マネジメントシート（平成30年度・令和元年度）	6
・一志病院長マネジメントシート（平成30年度・令和元年度）	10

令和元年10月3日
病院事業庁

病院事業庁長及び各病院長のマネジメントシートについて

病院事業庁では、全職員が一丸となって業務改善に取り組むためのマネジメントシステムとして、平成14年度から「BSC（バランス・スコアカード）」の考え方に基づくマネジメントを導入しており、病院事業庁長や病院長などが1年間の運営方針とこれに基づく主な取組を1枚のシート（マネジメントシート）にまとめて、県立病院の運営に係る進捗管理を行っています。

BSC（バランス・スコアカード）とは

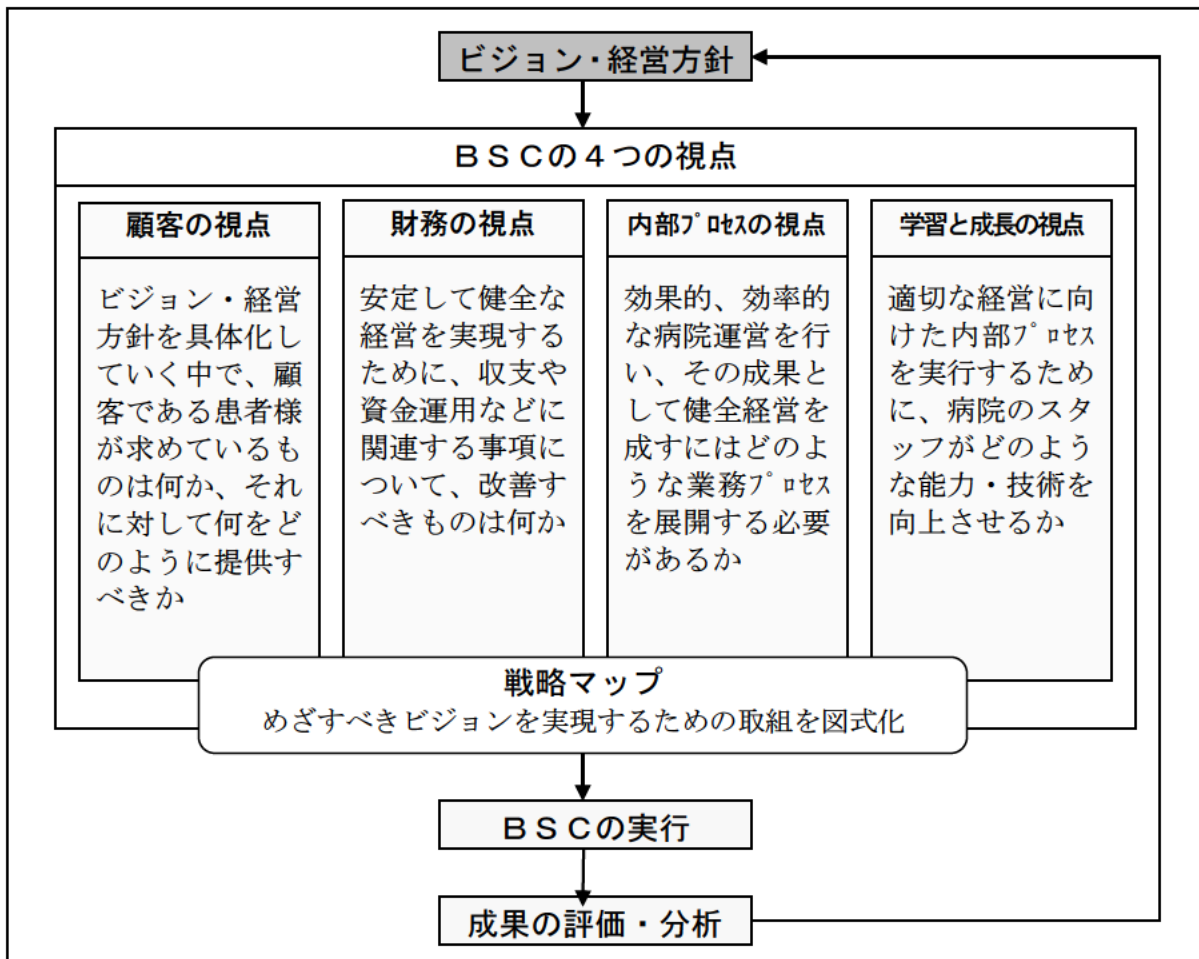
マネジメントシートの基本となっている「BSC」は、戦略を具体化し、これを実行するための経営管理の考え方と仕組みです。

BSCに基づく病院事業庁マネジメントシートの構成

病院事業庁及び各県立病院は、マネジメントシートを作成し、「ビジョン」を掲げるとともに、そのビジョンを達成するための「経営方針」を策定します。

さらに、この「ビジョン」を達成するための戦略目標や業績評価指標をBSCの考え方に基づき、4つの視点で分類しています。

また、経営戦略の考え方を図式化、可視化することによって、職員間のコミュニケーション・ツールとして活用しています。



平成30年度 病院事業庁長マネジメントシート(最終実績)

病院名	三重県病院事業庁						
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療						
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H29 実績値	H30 目標値	H30 実績値
顧客の 視点	<p>安定的、継続的な医療の提供</p> <p>地域や県民ニーズに応じた医療の提供</p> <p>良質で安全・安心な医療の提供</p> <p>患者満足度の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ●精神科専門医療の提供 ●家庭医療の実践 ●地域に必要な医療体制の整備 ●地域の医療機関等との連携・協力 	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上	患者満足度	88.7%	94.0%	87.0%
			県立病院の役割・機能の提供	訪問看護等延べ患者数	9,317人	9,000人	9,515人
			救急医療の充実	救急患者受入件数	1,523件	1,230件	1,418件
			地域の関係機関等との連携強化	関係機関等との連携件数	36件	36件	40件
			医療事故の防止	医療過誤数	0件	0件	0件
			志摩地域における医療提供体制の整備	志摩病院における入院・外来・救急患者数	222.7人/日 321.8人/日 5,845人/年	248.0人/日 333.0人/日 6,564人/年	198.5人/日 313.8人/日 5,806人/年
財務の 視点	<p>県立病院の健全経営</p>	県立病院の健全経営	経常収支均衡 資金収支均衡	経常収支比率 業収比率	100.4% 67.7%	101.2% 70.8%	99.7% 67.2%
			1日平均入院患者数 1日平均外来患者数	311.4人/日 312.0人/日	333.0人/日 354.0人/日	313.9人/日 300.6人/日	
			病床利用率の向上	病床利用率	79.0%	84.5%	79.7%
内部プロセスの 視点	<p>医師・看護師など医療スタッフの確保・定着</p> <p>病院機能の充実、業務改善、革新</p> <p>危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p>	医療スタッフの確保 業務改善の推進 危機管理の推進とコンプライアンスの確立 指定管理者制度導入後の進捗管理	人材の確保・定着	医師充足率 看護師充足率	86.2% 100.0%	100.0% 100.0%	87.2% 100.0%
			研修医(専攻医)の受入れ	後期研修医(専攻医)受入人数	4人	3人	4人
			看護師等実習生の受入れ	看護実習生等受入人数	2,739人	2,530人	2,684人
			改善活動の定着	業務改善取組テーマ数	2件	2件	2件
			災害医療体制の構築	災害時の医療支援訓練実施回数	4回	4回	4回
			リスクマネジメントの確立実践	医療安全委員会の開催回数	24回	24回	24回
			コンプライアンスの確立実践	研修会等の実施	3回	3回	9回
学習と成長の 視点	<p>風通しの良い職場づくり</p> <p>チーム力を最大にするコミュニケーションの向上</p> <p>一人ひとりの職員の専門能力の向上</p>	風通しの良い職場づくり 一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的回答割合	-	67.0%	65.2%
			コミュニケーションの向上	病院現場訪問等	5回	5回	5回
			専門能力の向上(スキルアップ)	職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的回答割合	-	68.0%	65.0%
			職員の危機管理意識の向上	危機管理研修等研修参加率	98.2%	93.7%	95.1%

従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。
 の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。

アクションプラン	実績評価	次年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> 患者アンケートの分析、改善活動 医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院祭等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施 こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実 救急医療の提供体制の充実 地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の強化 事故防止のための取組 指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療体制の回復・充実を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 和式トイレを洋式トイレに改修したり、接遇委員会を開催したりするなど、患者満足度向上に努めたものの目標を達成することができなかった。 こころの医療センターでは前年度を下回ったものの、一志病院では前年度を上回ったことで、目標を達成することができた。 こころの医療センター、一志病院ともに、目標を達成することができた。 地域の医療機関や介護、予防等の関係機関と積極的に連携し、目標を達成することができた。 医療安全に係る委員会の活動を通じて、意識向上を図り、目標を達成することができた。 常勤医師配置による産婦人科(婦人科)の外来診療等の拡充など、診療機能の回復・充実に努めたものの目標を達成することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者アンケート結果などをふまえながら、引き続き、患者満足度の向上に取り組んでいく必要がある。 患者の在宅療養が継続できるよう、引き続き、在宅療養支援のニーズに応えていく必要がある。 こころの医療センター、一志病院ともに、引き続き、関係機関との連携を図りながら救急患者の受入体制を維持していく必要がある。 引き続き、積極的に関係機関等と連携していく必要がある。 医療事故が起こらないよう、引き続き、あらゆる機会を通じて、事故防止の啓発等に取り組んでいく必要がある。 病床の効率的な運用や、診療機能の回復・充実に努め、患者数の確保につなげていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 2病院の医業収支比率の改善 入院患者数の確保に向けた取組 外来患者数の確保に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> 一志病院では経常収支比率や医業収支比率等の目標を達成したものの、病院事業庁全体では達成できず、黒字を確保することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、病院事業庁経営会議等を通じて、各病院の経営状況等を把握しながら、経営改善に取り組んでいく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) 勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等) 看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等 後期研修医(専攻医)の受入体制の確立 看護学生を対象とした看護実習の充実 研修指導医、看護実習指導者等の育成 未収金対策、診療報酬対策の2つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進 医療事故や自然災害等を想定した図上訓練の実施等 災害支援体制の確立(院内備蓄の整備・充実) 医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 個人情報管理等安全確保のための組織の充実 コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等 指定管理者制度導入後の連携・調整に係る体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 医師にとって魅力ある病院づくりや、ホームページによる病院の魅力の発信等を行ったものの、目標を達成することができなかった。 就職説明会の複数回開催などとともに、看護師が働きやすい職場環境づくりに取り組むことで目標を達成することができた。 指導医を確保し目標を達成することができた。 実習受入れに積極的に応え、目標を達成することができた。 未収金については、担当者会議を定期的開催し、診療報酬については、新たな加算等を取得することができた。 図上訓練等を計画的に実施することができた。 各病院における医療安全に関する委員会を定期的に開催するとともに、マニュアル見直し等を行った。 事例検討を通じたコンプライアンス研修を計画的に実施することができた。 志摩病院管理運営協議会や毎月の業務報告書の聴き取り等を通じて、運営状況を把握し、課題等について協議・調整を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、医師にとって魅力ある病院づくりや、ホームページ等を通じた病院の魅力の発信に取り組んでいく必要がある。 引き続き、看護師の確保・定着促進に取り組んでいく必要がある。 引き続き、後期研修医(専攻医)を受け入れられるよう指導体制を維持していく必要がある。 引き続き、実習内容をPRしながら、受入要請に積極的に対応していく必要がある。 引き続き、病院事業庁職員と病院職員が連携して、業務改善活動を定着・推進していく必要がある。 引き続き、各種研修会等を計画的に実施し、災害時における対応力の向上やコンプライアンスの徹底を図っていく必要がある。 志摩地域の中核病院としての役割・機能を担っていくため、引き続き、指定管理者と密接に連携し、診療機能の一層の向上を図っていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 「明るく(A)、楽しく(T)、前向きに(M)、そして自身の健康と家族を大切に」をモットーに明るく風通しの良い職場づくりの推進 ワーク・ライフ・マネジメントシート等を活用した対話の実施 現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり 研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等) 医療安全研修会等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 職員満足度が向上するよう、明るく風通しの良い職場づくりに取り組むとともに、休暇取得を促進するなど、ワーク・ライフ・マネジメントを推進した。 病院現場を重視する視点を常に持ちながら、職員間のコミュニケーションを大切にして、共に実践する組織づくりに取り組んだ。 研修への参加を促進するなど、職員の専門性や意識の向上に取り組んだ。 多くの職員が参加できるよう工夫を図り、目標を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員満足度の向上を図るため、引き続き、明るく風通しの良い職場づくりや、ワーク・ライフ・マネジメントの推進に努めていく必要がある。 コミュニケーションの向上を図るため、引き続き、現場やコミュニケーションを重視した組織づくりに取り組んでいく必要がある。 引き続き、職員の専門性や意識の向上に取り組んでいく必要がある。 引き続き、より多くの職員が参加しやすいよう、取り組んでいく必要がある。

令和元年度 病院事業庁長マネジメントシート

病院名	三重県病院事業庁			
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援			
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。またさらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。			
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標
顧客の視点	<p>安定的、継続的な医療の提供</p> <p>地域や県民ニーズに応じた医療の提供</p> <p>良質で安全・安心な医療の提供</p> <p>患者満足度の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ●精神科専門医療の提供 ●家庭医療の実践 ●地域に必要な医療体制の整備 ●地域の医療機関等との連携・協力 	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上 県立病院の役割・機能の提供 救急医療の充実 地域の関係機関等との連携強化 医療事故の防止 志摩地域における医療提供体制の整備	患者満足度 訪問看護等延べ患者数 救急患者受入件数 関係機関等との連携件数 医療過誤数 志摩病院における入院・外来・救急患者数
財務の視点	<p>県立病院の健全経営</p>	県立病院の健全経営	経常収支均衡 病床利用率の向上	経常収支比率 医業収支比率 1日平均入院患者数 1日平均外来患者数 病床利用率
内部プロセスの視点	<p>医師・看護師など医療スタッフの確保・定着</p> <p>病院機能の充実、業務改善、革新</p> <p>危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p>	医療スタッフの確保 業務改善の推進 危機管理の推進とコンプライアンスの確立 指定管理者制度導入後の進捗管理	人材の確保・定着 研修医・看護実習生等の受入れ 改善活動の定着 災害医療体制の構築 リスクマネジメントの確立実践 コンプライアンスの確立実践 指定管理者による診療体制の充実	医師充足率 看護師充足率 研修医・看護実習生等受入延べ人数 業務改善取組テーマ数 災害時の医療支援訓練実施回数 医療安全委員会の開催回数 研修会等の実施 管理運営協議会の開催
学習と成長の視点	<p>風通しの良い職場づくり</p> <p>チーム力を最大にするコミュニケーションの向上</p> <p>一人ひとりの職員の専門能力の向上</p>	風通しの良い職場づくり 一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	職員満足度の向上 コミュニケーションの向上 専門能力の向上(スキルアップ) 職員の危機管理意識の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的回答割合 病院現場との定例的な会議の開催 職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的回答割合 危機管理研修等参加率

します。また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。

た、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。

H30 目標値	H30 実績値	R元 目標値	アクションプラン
94.0%	87.0%	95.0%	・患者アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院祭等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施
9,000人	9,515人	9,000人	・こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実
1,230件	1,418件	1,230件	・救急医療の提供体制の確保
36件	40件	36件	・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組
0件/年	0件/年	0件/年	・事故防止のための取組
248.0人/日 333.0人/日 6,564人/年	198.5人/日 313.8人/日 5,806人/年	248.0人/日 333.0人/日 6,588人/年	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の回復・充実を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供
101.2% 70.8% 333.0人/日	99.7% 67.2% 313.9人/日	101.7% 71.0% 334.0人/日	・2病院の医業収支比率の改善 ・入院患者数の確保に向けた取組 ・外来患者数の確保に向けた取組
354.0人/日	300.6人/日	354.0人/日	
84.5%	79.7%	84.8%	
100.0%	87.2%	100.0%	・医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)
100.0%	100.0%	100.0%	・看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等
—	—	3,130人	・研修医等の受入体制の確保 ・研修や実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成
2件	2件	2件	・未収金対策、診療報酬対策の2つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進
4回	4回	4回	・医療事故や自然災害等を想定した図上訓練の実施等 ・災害支援体制の確立(院内備蓄の整備・充実)
24回	24回	24回	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実
3回	9回	9回	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等
2回	2回	2回	・指定管理者制度導入後の連携・調整に係る体制づくり
67.0%	65.2%	—	・日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 ・ワーク・ライフ・マネジメントシート等を活用した対話の実施
—	—	5回/月	・現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり
68.0%	65.0%	—	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)
93.7%	95.1%	94.5%	・医療安全研修会等の開催

平成30年度 こころの医療センター院長マネジメントシート(最終実績)

病院名	こころの医療センター						
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療サービスを提供していきます。						
経営方針	精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、健全な病院運営を政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県の精神科医療をリード						
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H29 実績値		
顧客の 視点		◎重点取組事項	病院機能の再編・推進	デイケア・ショートケア延べ患者数	14,446人		
			満足度の高い医療の提供	患者満足度	83.4%		
		早期社会復帰の推進	新患者の寛解率の向上	新患者の寛解率	61.3%		
			精神科救急・急性期医療の推進	精神科救急患者受入件数	258件		
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	地域生活支援体制の充実	訪問看護延べ患者数	4,824人		
			地域医療機関との連携	入院後1年以内の患者退院率	87.9%		
			精神科早期介入の推進	障害福祉サービス事業所等との連携取組件数	4件		
			県民ニーズの高い精神科医療の取組	医療機関訪問件数	213件		
		財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立	臨床・経営指標の追加・充実	充実
				医療収支改善	医療収支比率の改善	医療収支比率	68.4%
経常収支比率	97.7%						
アルコール依存症入院患者数	25.8人/日						
認知症入院患者数	34.5人/日						
1日平均入院患者数	271.8人/日						
1日平均外来患者数	232.9人/日						
内部プロセスの 視点		◎重点取組事項	常時急性期患者受入体制の確立	措置鑑定対応件数	62件		
		医療体制の構築	医師の充足	医師充足率	87.0%		
			看護師の充足	看護師充足率	100.0%		
		精神科倫理に則った病院運営	医療安全感染管理の徹底	危機管理研修等参加率	97.4%		
		経営改善プロジェクトチーム設置による医療の最適化及び経営改善の取組	経営改善の方向性決定	改善点の抽出及び具体的な取組実施	-		
学習と成長の 視点		◎重点取組事項	人材育成の充実取組	倫理委員会(研修)開催数	2回		
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加	人材育成研修開催数	5回		
		三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成	研修医・看護実習生等受入延べ人数	2,391人		
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	-		

進めます。 します。				
H30 目標値	H30 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
18,000人	12,302人	・日中活動支援の充実	・デイケアプログラムの充実に努めたものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、患者の生活能力等が向上するよう、患者の日常生活や就労面での支援を行っていく必要がある。
92.8%	81.1%	・患者等ニーズの把握	・トイレの改修や接遇研修など、ハード面及びソフト面の両方で取組を行ったものの、目標を達成することができなかった。	・患者アンケートの声などを踏まえながら、引き続き、患者満足度の向上に取り組んでいく必要がある。
60.0%	73.2%	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進	・前年度に比べ、大きく寛解率を向上させることができた。	・引き続き、早期、急性期医療の充実を図りながら、高い寛解率を維持していく必要がある。
230件	243件	・精神科救急受入体制の確保	・三重県精神科救急医療システムの支援病院として、多くの救急患者の受入れを行い、目標を達成することができた。	・引き続き、支援病院として受入体制を維持していく必要がある。
5,000人	4,781人	・アウトリーチサービスの充実	・前年度実績を若干下回ったものの、おおむね目標を達成することができた。	・患者の在宅療養が継続できるよう、引き続き、訪問看護サービスの充実を図っていく必要がある。
95.0%	96.2%	・地域の関係施設との連携及び日中活動支援等の充実	・市町や障害福祉サービス事業所等の関係機関と連携して退院支援を行うことで、目標を達成することができた。	・引き続き、関係機関と連携し、退院に向けた適切な支援を行っていく必要がある。
6件	6件	・地域医療機関への訪問 ・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催	・障害福祉サービス事業所との意見交換会の開催や医療機関への訪問などを積極的にを行い、顔の見える関係づくりを推進した。	・引き続き、関係機関との顔の見える関係づくりに取り組んでいく必要がある。
200件	229件	・早期介入拠点(YMSC-MIE・YAC)の充実、ケースマネジメント体制の確立	・一部目標を達成することができなかったものの、積極的に、精神疾患に悩む若者やその家族からの相談への対応や、精神疾患・精神障がいにかかる普及啓発に取り組むことができた。	・引き続き、若者等への早期介入・早期支援に取り組むとともに、精神疾患等への正しい理解を広めるためのセミナーを開催していく必要がある。
32件	77件	・精神科医療取組の広報・啓発等		
充実	充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析	・全国自治体病院協議会が行っている「医療の質の評価・公表等推進事業」へ参加し、職員の知識を深めた。	・引き続き、同左の事業における指標の分析を行い、他県の県立精神科病院との比較検討を行っていく必要がある。
74.4%	67.5%	・精神科専門治療の充実		
101.3%	97.1%	・精神科特定入院料の算定		
30.0人/日	26.2人/日	・収支改善に向けた病院機能の検討	・急性期の入院患者に対する医療の提供や訪問看護・デイケア等による地域生活支援の充実などの医療サービスを提供した。	・急性期の入院患者に対する医療の提供や訪問看護・デイケア等による地域生活支援の充実などの医療サービスを提供するとともに、診療報酬改定への的確な対応を通じて、収益増を図っていく必要がある。
40.0人/日	37.2人/日	・病棟機能の明確化と病棟間の連携	・上記に加え、経営改善プロジェクトを設置し、経営改善に向けた取組を開始したことで一定の成果はあったものの経常収支は赤字になった。	・引き続き、経営改善プロジェクトを通じて経営改善に向けた取組を実施する必要がある。
295.0人/日	274.6人/日	・飲酒運転違反者に対する診察		
275.0人/日	221.2人/日	・認知症相談、啓発研修の実施		
50件	63件	・県障がい福祉課・保健所等との連携、院内救急体制整備	・積極的に措置鑑定要請に対応することで、目標を達成することができたとともに前年度実績も上回った。	・引き続き、多くの要請に対応できるよう、体制を維持していく必要がある。
100.0%	88.4%	・研修や資格取得へのバックアップ体制を強化し医師に魅力ある病院づくりの取組	・医師にとって魅力ある病院づくりに努めるとともに、ホームページを通じて病院の魅力の発信などを行ったものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、医師にとって魅力ある病院づくりや、ホームページ等を通じた病院の魅力の発信に取り組んでいく必要がある。
100.0%	100.0%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力ある病院づくりへの取組	・就職説明会の複数回開催などとともに、看護師が働きやすい職場環境づくりに取り組むことで目標を達成することができた。	・引き続き、看護師の確保・定着促進に取り組んでいく必要がある。
91.0%	92.8%	・医療安全研修の複数回実施	・前年度実績を下回ったものの、目標を達成することができた。	・引き続き、より多くの職員が参加しやすいよう、取り組んでいく必要がある。
5項目以上	21項目	・毎月の会議開催	・現状分析等を行い、改善点を抽出し、具体的な取組を実施したことから、一定の成果があった。	・引き続き、患者数の増及び収益確保に向けた取組を検討・実施し、経常収支の黒字化をめざしていく必要がある。
2回	2回	・職員の倫理意識向上のための研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施	・身体拘束等の医療倫理に関する研修を実施した。	・引き続き、医療倫理や職員のスキル向上につながる研修を実施し、人材を育成していく必要がある。
5回	5回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施	・院内の全職員を対象とした院内研修を実施するとともに、院外研修の受講を促進した。	
2,200人	2,347人	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実 ・看護大学との連携による臨床能力の向上	・研修医や看護実習生等を積極的に受け入れることで、目標を達成することができた。	・県内の精神科医療水準の向上のため、引き続き、研修医・看護実習生等を積極的に受け入れていく必要がある。
65.0%	62.0%	・ワーク・ライフ・マネジメントの推進	・モチベーションが向上するよう職種間での対話を促進した。	・引き続き、対話を通じてワーク・ライフ・マネジメントを推進する必要がある。

令和元年度 こころの医療センター院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター		
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療サービスを提供していきます。		
経営方針	精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、健全な病院運営政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県の精神科医療を		
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		◎重点取組事項	病院機能の再編・推進
		早期社会復帰の推進	満足度の高い医療の提供
財務の視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立
		医業収支改善	医業収支比率の改善
内部プロセスの視点		◎重点取組事項	経営改善の方向性決定
		医療体制の構築	常時急性期患者受入体制の確立
学習と成長の視点		◎重点取組事項	人材育成の充実取組
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加
		三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上

を進めます。
リードします。

業績評価指標	H30 目標値	H30 実績値	R元 目標値	アクションプラン
デイケア・ショートケア延べ患者数	18,000人	12,302人	18,000人	・タスクフォースによる改善の取組
患者満足度	92.8%	81.1%	94.3%	・タスクフォースによる改善の取組
新患者の寛解率	60.0%	73.2%	60.0%	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進
精神科救急患者受入件数	230件	243件	230件	・精神科救急受入体制の確保
訪問看護延べ患者数	5,000人	4,781人	5,000人	・訪問看護Gの看護部への移管による柔軟な運営
入院後1年以内の患者退院率	95.0%	96.2%	95.0%	・地域の関係施設との連携及び日中活動支援等の充実
障害福祉サービス事業所等との連携取組件数	6件	6件	6件	・地域医療機関への訪問 ・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催
医療機関訪問件数	200件	229件	200件	
精神科早期介入対応件数	200件	176件	200件	・早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実、ケースマネジメント体制の確立
こころしっとセミナー開催件数	32件	77件	34件	・精神科医療取組の広報・啓発等
臨床・経営指標の追加・充実	充実	充実	充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析
医業収支比率	74.4%	67.5%	74.0%	・精神科専門治療の充実
経常収支比率	101.3%	97.1%	101.2%	・精神科特定入院料の算定
アルコール依存症入院患者数	30.0人/日	26.2人/日	30.0人/日	・収支改善に向けた病院機能の検討
認知症入院患者数	40.0人/日	37.2人/日	40.0人/日	・病棟機能の明確化と病棟間の連携
1日平均入院患者数	295.0人/日	274.6人/日	296.0人/日	・飲酒運転違反者に対する診察
1日平均外来患者数	275.0人/日	221.2人/日	275.0人/日	・認知症相談、啓発研修の実施
病棟再編の具体案の検討、実施	—	—	検討、実施	・経営改善プロジェクトによる進捗管理
措置鑑定対応件数	50件	63件	50件	・県健康づくり課・保健所等との連携、院内救急体制整備
医師充足率	100.0%	88.4%	100.0%	・研修や資格取得へのバックアップ体制を強化し医師に魅力ある病院づくりの取組
看護師充足率	100.0%	100.0%	100.0%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力のある病院づくりへの取組
危機管理研修等参加率	91.0%	92.8%	92.0%	・医療安全研修の複数回実施
倫理委員会(研修)開催数	2回	2回	2回	・職員の倫理意識向上のための研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施
人材育成研修開催数	5回	5回	5回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施
研修医・看護実習生等受入延べ人数	2,200人	2,347人	2,200人	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実 ・看護大学との連携による臨床能力の向上
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	65.0%	62.0%	—	・ワーク・ライフ・マネジメントの推進

病院名	一志病院				
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決するモデルになります。				
経営方針	あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。 県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院をめざします。 職員の意欲と能力の向上に努めます。 継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。				
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H29 実績値
顧客の 視点	<p>全国的な医療サービスの提供</p> <p>県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院</p> <p>経営の健全化</p> <p>地域に最適な医療体制づくり</p> <p>地域医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 包括的なケア 多職種連携 住民参画型 <p>総合診療医</p> <p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療を担う人材の教育 <p>研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究 <p>職員の意欲と能力の向上</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>	県内への医師等の定着 プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加 入院患者の増加	1日平均外来患者数 1日平均入院患者数【病床利用率】	79.1人/日 39.6人/日【86.0%】
		県民の皆さんが信頼し自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	県内医療過疎地域への貢献 患者及び家族の満足度向上	医療過疎地域等への支援件数 患者満足度	6件 97.7%
		経営の健全化	収支の改善 収益の確保	経常収支比率 医業収支比率 診療報酬検討会開催回数	110.0% 72.9% 12回
		地域に最適な医療体制の構築	医師の充足 看護師の充足 関係機関・地域住民との連携強化 在宅療養の充実 救急医療体制の確立 予防医療の実践	医師充足率 看護師充足率 多職種連携による取組件数 訪問診療、訪問看護等延べ患者数 救急患者受入件数(救急車搬送患者を含む) 住民健診、人間ドック、がん検診受検者数	84.4% 100.0% 32件 4,493人 1,265件 1,466人
内部プロセスの 視点	<p>総合診療医を中心とした地域医療</p> <p>プライマリ・ケアを担う人材の育成(地域医療を担う人材の教育)</p> <p>プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出(実践的かつ先進的な研究の実施)</p>	プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)	研修医・医学生の受入体制の充実 看護師等育成の支援 プライマリ・ケアセンターへの支援	初期研修医・医学生受入延べ人数 看護実習生等受入延べ人数 プライマリ・ケア研修会開催件数	630人 348人 3件
		家庭医療等に関する研究の実施	学会発表・論文発表件数	43件	
		職員の意欲と能力の向上 (業務改善に向けた取組)	医療従事者の能力向上 危機管理対策の向上 業務改善の推進	学会、研修、カンファレンス等の参加率 危機管理研修等参加率 夢プロジェクト開催回数	100.0% 100.0% 12回
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	-
学習と成長の 視点	<p>職員の意欲と能力の向上</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>	職員の意欲と能力の向上 (業務改善に向けた取組)	医療従事者の能力向上 危機管理対策の向上 業務改善の推進	学会、研修、カンファレンス等の参加率 危機管理研修等参加率 夢プロジェクト開催回数	100.0% 100.0% 12回

H30 目標値	H30 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
79.0人/日	79.4人/日	・総合診療医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。	・訪問診療、訪問看護等の在宅療養支援の充実などに努めたことで、目標を達成することができた。	・引き続き、地域住民の幅広いニーズに対応し、プライマリ・ケアの実践により患者数の確保に取り組んでいく必要がある。
38.0人/日 【82.6%】	39.3人/日 【85.4%】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。	・地域の医療機関、保健・福祉機関等との連携により、前年度同様、高い入院患者数を維持することができた。	・地域の関係機関との連携により、引き続き、地域の入院ニーズに対応していく必要がある。
7件	6件	・へき地医療拠点病院として、診療圏外に所在する診療所等へ代診医の派遣を行う。	・目標値には届かなかったものの、へき地医療支援機構からの依頼にすべて応じて代診医派遣を行うことができた。	・県内の医療過疎地域を支援できるよう、引き続き代診医派遣等に取り組んでいく必要がある。
96.6%	96.9%	・患者様アンケートを通じ患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の見学能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。	・外来待合所の環境整備など院内の環境改善を図るとともに、病院職員が患者様の気持ちに寄り添った対応を心がけた。	・高い患者満足度を維持するため、引き続き、患者の皆さんの意見を病院運営に生かしていく必要がある。
101.0%	108.8%	・入院、外来患者数増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。 ・請求漏れ対策や減点対策等に取り組み、収益増を図る。	・入院収益等の医療収益が増加したことなどから、経常収支は6年連続で黒字を確保することができた。	・引き続き、患者数の確保や費用の縮減等に努めることで、黒字を維持していく必要がある。
66.4%	73.8%	・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。	・経営勉強会を開催するなど、職員一人ひとりのコスト意識の向上を図った。	
12回	12回	・収益増加、経費節減策の提案・実行に取り組む。		
100.0%	84.7%	・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど勤務医にとって魅力のある病院づくりに取り組む。	・医師にとって魅力ある病院づくりに努めるとともに、三重大学などへの働きかけを行ったものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、医師にとって魅力ある病院づくりや大学などへの働きかけに取り組んでいく必要がある。
100.0%	100.0%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力のある病院づくりに取り組む。	・プライマリ・ケア研修会等で当院の取組を情報発信したり、看護師が働きやすい職場環境づくりに取り組んだりしたことで目標を達成することができた。	・引き続き、看護師の確保・定着促進に取り組んでいく必要がある。
30件	34件	・地域ケア会議の定期開催により、保健・医療・福祉の連携を図る。 ・「顔の見え会」の活動や講演会等の開催を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。	・地域の保健・医療・福祉の多職種による課題検討会やシンポジウムの開催などを通じて、地域住民や関係者の意識向上や一体感の醸成を図った。	・引き続き、地域住民や関係者の意識向上や一体感の醸成を図っていく必要がある。
4,000人	4,734人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。	・在宅医療ニーズの増に加え、保健・福祉機関等との連携などにより、前年度実績を上回るサービスを提供することができた。	・引き続き、在宅療養支援のニーズに応えていく必要がある。
1,000件	1,175件	・宿日直体制を維持し救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。	・救急隊と医師をつなぐ「救急ホットライン」や、診療所・福祉施設と外来師長をつなぐ「外来ホットライン」を活用し、目標を達成することができた。	・引き続き、消防機関や診療所等との密接な連携を図るとともに、24時間365日の救急患者受入体制を維持していく必要がある。
1,400人	1,501人	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。	・健康教室等を定期的に開催し、地域住民の皆さんの健康管理に対する意識の向上を通じて、目標を上回る住民健診等を実施することができた。	・引き続き、健康教室や出前講演等を通じて予防医療を啓発するとともに、住民健診等を実施する体制を維持していく必要がある。
600人	565人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。	・初期研修医や医学生を積極的に受け入れたものの、県外病院の初期研修医の減少等により目標を達成することができなかった。	・引き続き、初期研修医や医学生を積極的に受け入れていく必要がある。
330人	337人	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。	・看護や介護の実習生を積極的に受け入れることで、目標を達成することができた。	・引き続き、実習生を積極的に受け入れ、実践的な研修を行うとともに、指導者の育成に取り組んでいく必要がある。
3件	3件	・当院に設置された三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。	・研修会の開催やプライマリ・ケア エキスパートナースの認証などについて、積極的に支援を行った。	・三重県プライマリ・ケアセンターの機能が十分に発揮されるよう、引き続き、積極的に支援を行っていく必要がある。
30件	40件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。	・職員の研究に対する意欲の醸成に努めるとともに、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会への参加などにより、目標を大きく上回った。	・引き続き、研究に対する意欲の醸成に努めるとともに、研究に取り組みやしやすい職場環境を維持していく必要がある。
100.0%	100.0%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。	・全職員が学会や研修会等に1度は参加することができた。	・引き続き、学会や研修会等に参加しやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。
100.0%	100.0%	・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。	・患者や家族の視点に立った医療を安全・安心に提供できるよう、危機管理に対する職員の意識や対応能力の向上に努めた。	・引き続き、危機管理に対する職員の意識や対応能力の向上を図っていく必要がある。
12回	12回	・一志病院のビジョン達成のため「夢プロジェクト」の活動を通じて、職員の意欲と能力を向上させ、様々な業務改善を積極的に推進する。	・夢プロジェクト内に設けられた各戦略グループの取組状況の報告、確認等を行いつつ、業務改善を積極的に行った。	・引き続き、夢プロジェクトの活動に参加しやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。
68.0%	68.0%	・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。	・夢プロジェクトの活動等を通じ、対話の促進やモチベーションの向上を図ることができた。	・すべての職員が様々な取組の充実や改善に貢献することを実感できるよう、引き続き努めていく必要がある。

病院名	一志病院		
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。		
経営方針	あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。 県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院をめざします。 職員の意欲と能力の向上に努めます。 継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。		
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の 視点		プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加 入院患者の増加
		県民の皆さんが信頼し自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	県内医療過疎地域への貢献 患者及び家族の満足度向上
財務の 視点		経営の健全化	収支の改善 収益の確保
内部プ ロセス の視点		地域に最適な医療体制の構築	医師の充足 看護師の充足 関係機関・地域住民との連携強化
		総合診療医を中心とした地域医療	在宅療養の充実 救急医療体制の確立
		プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)	予防医療の実践 研修医・医学生の実入体制の充実 看護師等育成の支援
		プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出 (実践的かつ先進的な研究の実施)	プライマリ・ケアセンターへの支援 家庭医療等に関する研究の実施
学習と 成長の 視点		職員の意欲と能力の向上 (業務改善に向けた取組)	医療従事者の能力向上 危機管理対策の向上 業務改善の推進
	風通しの良い職場づくり	風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上

業績評価指標	H30 目標値	H30 実績値	R元 目標値	アクションプラン
1日平均外来患者数	79.0人/日	79.4人/日	79.0人/日	・総合診療医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。
1日平均入院患者数 【病床利用率】	38.0人 【82.6%】	39.3人/日 【85.4%】	38.0人 【82.6%】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等情報に関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。
医療過疎地域等への支援 件数	7件	6件	7件	・へき地医療拠点病院として、診療圏外に所在する診療所等へ代診医の派遣を行う。
患者満足度	96.6%	96.9%	96.6%	・患者様アンケートを通じ患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。
経常収支比率	101.0%	108.8%	103.8%	・入院、外来患者数増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。
営業収支比率	66.4%	73.8%	68.3%	・請求漏れ対策や減点対策等に取り組む、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。 ・収益増加、経費節減策の提案・実行に取り組む。
診療報酬検討会開催回数	12回	12回	12回	
医師充足率	100.0%	84.7%	100.0%	・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど勤務医にとって魅力のある病院づくりに取り組む。
看護師充足率	100.0%	100.0%	100.0%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力のある病院づくりに取り組む。
多職種連携による取組件数	30件	34件	30件	・地域ケア会議の定期開催等により、保健・医療・福祉の連携を図る。 ・「顔の見える会」の活動や講演会等の開催を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。
訪問診療、訪問看護等延べ 患者数	4,000人	4,734人	4,000人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。
救急患者受入件数 (救急車搬送患者を含む)	1,000件	1,175件	1,000件	・宿日直体制を維持し救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。
住民健診、人間ドック、がん 検診受検者数	1,400人	1,501人	1,400人	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。
初期研修医・医学生受入延 べ人数	600人	565人	600人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。
看護実習生等受入延べ人 数	330人	337人	330人	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内や訪問看護の実習等を通じ人材育成の支援を行う。
プライマリ・ケア研修会開催 件数	3件	3件	3件	・当院に設置された三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。
学会発表・論文発表件数	30件	40件	30件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。
学会、研修、カンファレンス 等の参加率	100.0%	100.0%	100.0%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。
危機管理研修等参加率	100.0%	100.0%	100.0%	・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。
夢プロジェクト開催回数	12回	12回	12回	・一志病院のビジョン達成のため「夢プロジェクト」の活動を通じて、職員の意欲と能力を向上させ、様々な業務改善を積極的に推進する。
職員アンケートの「満足度」 の設問での肯定的な回答 割合	68.0%	68.0%	-	・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。

令和元年三重県議会定例会
予算決算常任委員会

決算審査意見に対する考え方について

令和元年10月3日
病院事業庁

項目	頁
(1) 平成 30 年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の運営について	1
(1)－ア 平成 30 年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の運営について (こころの医療センター)	2
(1)－イ 平成 30 年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の運営について (一志病院)	3
(1)－ウ 平成 30 年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の運営について (志摩病院)	4
(2) 未収金の回収と発生防止について	5

項目 (1)	平成 30 年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の 運営について	意見書 2 頁
意見	<p>平成 30 年度病院事業会計の経常損益及び純損益は、いずれも約 7,533 万円の赤字となり、29 年度決算に比べ約 1 億 545 万円悪化している。これは、経常損益では平成 25 年度以来 5 年ぶり、純損益では 26 年度以来 4 年ぶりの赤字であり、「三重県病院事業 中期経営計画（改定版）（平成 29 年度～平成 32 年度）」（以下「中期経営計画」という。）における 30 年度の収支計画を約 6,151 万円下回っている。</p> <p>さらに、依然として、約 92 億円の当年度未処理欠損金（累積欠損金）もあり、厳しい経営状況にあることから、医業収益の増加を図るなど、経営の健全化に努められたい。</p> <p>また、中期経営計画に基づき、各年度における成果目標等の進捗管理を行っているが、目標未達成の項目が多くあるため、各病院がそれぞれの役割・機能を十分に発揮できるよう、引き続き、計画の着実な推進を図られたい。</p>	

1 経営の健全化について

病院事業会計においては、平成 16 年度から導入された医師の新臨床研修制度による地域の医師不足に伴う各病院の診療体制の縮小や、診療報酬の改定などによる影響を受けて経営状況が悪化したことから、多額の累積欠損金が発生しています。

こうした中で、病院事業の運営においては患者数の確保が課題となっていますが、こころの医療センターにおいては救急患者の積極的な受入れやデイケアの充実など、一志病院においては保健・福祉機関との連携や予防医療の推進などにより、入院・外来患者数を確保し、医業収益の増加を図るなど、引き続き経営の健全化に努めてまいります。

2 中期経営計画の着実な推進について

中期経営計画に掲げた取組については、毎月、各病院との会議を通じて、その進捗状況や課題等を各病院と共有したうえで、必要となる対策等に取り組んでいるところです。

引き続き、目標未達成の項目については、原因分析を行うとともに具体的な取組の検討・協議を行うなど、各病院がそれぞれの役割・機能を十分に発揮できるよう、計画の着実な推進を図ってまいります。

項目 (1) ーア	平成30年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の運営について（こころの医療センター）	意見書 4頁
意見	<p>経常損益、純損益とも約9,414万円の赤字となり、前年度に比べいずれも約1,958万円悪化し、2年連続の赤字となった。また、これは、中期経営計画における平成30年度の収支計画を約1億3,618万円下回るものである。</p> <p>平成30年度から進めている経営改善プロジェクトの取組により、入院収益の増加など一部で改善も見られるものの、さらに新規入院患者の確保やデイケアサービスの充実により外来患者の増加に繋げることで医業収益の増加に努めるとともに、経費等の医業費用の削減を行うなど、より一層、経営の健全化に取り組まれない。</p> <p>さらに、今後も「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という精神科医療の方向性を踏まえ、精神科医療の中核病院としての役割を担いながら、多様な医療ニーズに応じたきめ細かなサービスの提供に努められたい。</p>	

1 経営の健全化について

平成30年4月に院長をトップに多職種の職員で構成する経営改善プロジェクトを設置し、課題の抽出と経営改善に向けた様々な取組の検討を行い、同年10月以降、入院患者の確保やデイケアサービスの利用促進、病床管理の適正化などの取組を順次実施しています。

こうした中、全ての取組で成果が出たとは言えないものの、救急・急性期病棟の収益向上など経営改善の兆しが見えてきたところです。

また、国の精神科医療政策の動向や患者ニーズ等を踏まえ、健全経営の観点から、将来の病棟機能のあり方についても検討を進めています。

今後も引き続き、経営改善プロジェクトでの取組を中心に、収益の増加と費用の削減に努め、経営の健全化を進めてまいります。

2 多様な医療ニーズに応じたきめ細かなサービスの提供について

県内の精神科医療における中核病院として、精神科救急・急性期医療等の政策的医療や認知症治療、アルコール依存症治療、精神科早期介入などの専門的医療を提供するとともに、研修医や看護実習生等を積極的に受け入れるなど、県内の精神科医療人材の育成にも取り組んでいます。

また、「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という方向性の中で、入院診療においては、入院時から退院を視野に入れた多職種による支援を行いながら、適切な治療を進め、早期の退院を図っています。外来診療においては、患者の生活能力の向上を図るとともに、在宅での生活において継続して治療が行えるよう、デイケアプログラムや訪問看護の充実など地域生活支援に向けた取組を積極的に進め、入院から退院、在宅まで切れ目のない治療を提供しています。

今後も引き続き、これらの取組を推進し、多様な医療ニーズに応じたきめ細かなサービスの提供に努めてまいります。

項目 (1) ーイ	平成 30 年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の 運営について（一志病院）	意見書 4 頁
意見	<p>経常損益、純損益とも約 8,273 万円の黒字となり、前年度に比べいずれも約 862 万円減少しているものの、中期経営計画における平成 30 年度の収支計画を約 7,312 万円上回っており、引き続き、健全な経営に努められたい。</p> <p>また、過疎化、高齢化が進み、住民の医療ニーズがより一層高まっている中、幅広い臨床能力を有する総合診療医の育成拠点施設としての役割を果たすとともに、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの実践に取り組むなど、引き続き、地域に最適な医療サービスの安定的な提供に努められたい。</p>	

1 健全な病院経営について

医療・介護・予防等の多職種による連携会議の開催を始めとした、地域の診療所、消防機関及び福祉施設との連携等により、入院患者及び外来患者の確保に取り組むとともに、住民向けの健康教室、出前講座等を通じて地域住民の健康管理に対する意識の向上を図ることで、住民健診、人間ドック及びがん検診の受診者数確保にも取り組み、収益の増加を図っています。

今後も、入院・外来患者や健康診断等受診者の確保等を通じて収益の増加を図り、健全な経営に努めてまいります。

2 地域に最適な医療サービスの安定的な提供について

高齢化が進み、医療資源が十分でない津市白山・美杉地域においては、幅広い臨床能力を有する総合診療医による診療並びにプライマリ・ケアの実践が重要となっています。

このことから、三重大学と密接に連携を図りながら積極的に研修医や医学生を受け入れるなど、総合診療医の育成拠点施設としての役割を果たすとともに、三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア エキスパートナース研修会の開催を支援するなど、人材育成に取り組んでいるところです。

また、入院診療や外来診療に加え、通院が困難な患者に対する訪問診療、訪問看護等の在宅療養支援や、24 時間 365 日の救急患者の受入れなどにも取り組んでいます。

今後も、総合診療医やプライマリ・ケアを担う人材の育成に積極的に取り組むとともに、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの実践に取り組むなど、地域に最適な医療サービスの安定的な提供に努めてまいります。

項目 (1) 一ウ	平成 30 年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の 運営について（志摩病院）	意見書 4 頁
意見	<p>志摩病院では、平成 24 年度に指定管理者制度を導入して以降、県と指定管理者の基本協定（平成 24 年度～令和 3 年度）に基づく病院運営を行い、7 年が経過した。この間、稼働病床の段階的増床や内科系救急における 24 時間 365 日の受入体制などを実現しているが、外科系における救急受入体制の回復や一部診療科における常勤医師の配置が進んでおらず、さらに前年度と比べても常勤医師数が減少している。</p> <p>このような状況を踏まえ、指定管理者と十分な連携を図り、常勤医師の確保やさらなる救急受入体制の拡充など診療機能の充実強化に取り組むとともに、回復期機能も有する地域の中核病院としての役割を果たすよう努められたい。</p>	

1 診療機能の充実について

指定管理者においては、常勤医師の確保に努め、入院診療体制や救急受入体制などの段階的な回復を図るとともに、平成 30 年 4 月には、非常勤医師による外来診療となっていた産婦人科に常勤医師（1 名）を配置するなど、診療機能の充実を図っています。

また、回復期機能を担う地域包括ケア病棟を運用するとともに、平成 30 年 4 月からは、退院した患者等が介護認定を受けた後も継続してリハビリテーションを受けられるよう、通所リハビリテーション事業を実施するなど、地域の多様なニーズに的確に対応しています。

さらに、地域医療支援病院として、地域の医療機関との紹介・逆紹介の推進や医療機器等の共同利用など、地域医療の確保、質の向上に必要な支援等を実施するとともに、へき地医療拠点病院として、志摩市間崎島への巡回診療を月 2 回実施するなど、地域医療の維持にも貢献しています。

しかしながら、全国的な医師不足等の影響もあり、外科系における救急受入れは平成 24 年度（指定管理者制度導入時）の体制の維持に留まっており、一部診療科における常勤医師の配置も進んでいないなどの課題もあります。

外科系における救急受入体制の回復については、相当数の医師（外科系・整形外科）を確保したうえで当直等の勤務体制を構築することが必要であるため、継続的に三重大学へ医師の派遣を要請しているところであり、一部診療科への常勤医師の配置については、複数の非常勤医師の採用や指定管理者が運営する他病院からの支援により、診療機能の確保を図っています。

今後も、地域の中核病院としての役割を果たせるよう、指定管理者に対して充実した医師の配置を要請するとともに、病院事業庁としても三重大学に対して医師の派遣を要請するなど、医師の確保を図り、診療機能の充実強化に取り組んでまいります。

項目 (2)	未収金の回収と発生防止について	意見書 7頁
意見	<p>平成30年度末における病院事業庁全体の診療費自己負担金の未収金（過年度収入未済額）は、前年度に比べ約796万円減少し、約6,822万円となっている。</p> <p>未収金の回収については、電話督促、催告書等送付及び臨戸訪問を行い、回収困難案件については弁護士法人に回収委託を行うとともに、関係機関と連携した生活困窮者に対する経済的支援制度の申請支援などに取り組み、約939万円を回収している。引き続き、回収に向けての取組を進められたい。</p> <p>また、未収金の新規発生額は、前年度に比べ約479万円減少したものの、約377万円発生しているため、引き続き、未収金の発生防止に取り組みたい。</p>	

1 未収金の回収と発生防止について

過年度医業未収金の縮減に向けては、発生防止と回収の両面から対策を進めています。

今後も、各病院からの債務者への督促・催告に加え、法的措置や回収業務委託も活用して対応するなど、効果的で必要な対策を推進してまいります。

なお、発生防止及び発生後の回収対策の主な取組は、次のとおりです。

(1) 発生防止対策

- ①入院時の説明の際に、入院費用の説明書に加えて高額療養費制度に関する説明書等を併せて渡し、診療費用の支払に関する早期相談の促進に努めています。
- ②診療時や相談対応時など様々な機会を捉えて、公費負担制度の説明及び申請のサポートを行っています。
- ③病棟、会計、地域連携室等において、患者の支払いに関する情報共有を徹底しながら、早期の対応（面談、早期支払いの働きかけ等）を行うよう努めています。

(2) 回収対策

- ①文書及び電話等による督促・催告を、本人に加えて連帯保証人等に対しても継続的に行っています。
- ②病院からの督促等にも応じず、理由なく支払わない者については、裁判所が債権者に代わって債務者へ請求を行う制度（支払督促）の活用や、給与の差押などの強制執行を行っています。
- ③県独自の対応で回収が困難なものについては、弁護士法人へ回収業務を委託しています。